

図表 4-55 フィブリノゲン - ミドリによる肝炎発症の調査結果と実際の把握症例数

年月日	報告症例数 ¹⁰⁹	実際の把握症例数 ¹¹⁰
①1987 (S62) 年 5月8日	39軒 57例 (4月28日時点)	39軒 57例 (4月28日時点)
②1987 (S62) 年 5月19日	45軒 65例 (5月15日時点)	62軒 89例 (5月15日時点)
③1987 (S62) 年 6月12日	47軒 71例 (6月10日時点)	74軒 109例 (5月29日時点)
④1987 (S62) 年 7月14日 (最終)	41軒 74例	74軒 112例 (6月18日時点)

この表より、1987 (S62) 年 5月 19日の第2回中間報告以降、実際に把握している症例数よりも少ない数を厚生省に報告している事実を確認することができる。なお、これらの集計結果が記載された資料には「発現総数 47軒 74症例で報告いたします。」という記述を確認することができる¹¹¹。

加熱製剤による肝炎発症実態の調査¹¹²について (1987 (S62) 年 4月～1992 (H4) 年 12月)

加熱製剤に関する調査は、1987 (S62) 年 4月 21日から提供した治験品に関する調査と、同年 6月 11日から提供した市販品に関する調査の2つに分けることができるが、調査結果の報告は、それらを合わせて1987 (S62) 年 11月 5日、1988 (S63) 年 4月 5日、同年 5月 6日の計3回なされている。

しかし、これらの報告症例数も過少報告であったことが分かっている。当時の資料を基に、実際にミドリ十字社が何例の症例を把握していたかを併せて整理したものが、次の表である。

図表 4-56 加熱製剤による肝炎発症の調査結果と実際の把握症例数

年月日	報告症例数 ¹¹³	実際の把握症例数
①1987 (S62) 年 11月5日	3例	11例 ¹¹⁴ (418人リスト ¹¹⁵ によると30例)
②1988 (S63) 年 4月5日	11例	—
④1988 (S63) 年 5月6日 (最終)	34例 (846症例中)	(418人リスト ¹¹⁶ によると100例以上)

ミドリ十字社は、1987 (S62) 年 11月 5日に、加熱製剤による肝炎発症症例数として3例という報告を行っている。しかし、“秘”と記載された「フィブリノゲン HT—ミドリ対処の件」(1987 (S62) 年 11月 10日) という資料によれば、1987 (S62) 年 11月 5日時点で11例の非A非B型肝炎の発生

¹⁰⁹ H14.5.31 三菱ウェルファーマ社報告書 資料1-(4)-4～7

¹¹⁰ H14.8.9 三菱ウェルファーマ社報告書 資料2-(1)-6

¹¹¹ 1987 (S62) 年 7月 14日に報告した「41軒 74症例」と数値が異なるのは、報告の直前に整理を行った結果、47軒ではなく41軒であったことが判明したためである。

¹¹² 治験品に関する調査も含む。

¹¹³ H14.5.31 三菱ウェルファーマ社報告書 資料1-(4)-8～10

¹¹⁴ H14.8.9 三菱ウェルファーマ社報告書 資料2-(1)-7

¹¹⁵ H14.8.9 三菱ウェルファーマ社報告書 別紙2

¹¹⁶ H14.8.9 三菱ウェルファーマ社報告書 別紙2